

North Pacific Marine Science Organization (PICES) meeting 2024:

“The Future of PICES: Science for Sustainability in 2030”

(<https://meetings.pices.int/meetings/annual/2024/PICES/scope>)

2024/10/26~11/1, Honolulu, USA, Convention Center

会議の範囲

PICES は北太平洋の海洋生態系を研究する学術組織であり、その主力科学プログラムの支援により、北太平洋の海洋生態系の構造、機能、変化に関するより徹底した理解の発展にリーダーシップを発揮してきました。現在の科学プログラム「北太平洋海洋生態系の傾向、不確実性、および反応の予測と理解」(FUTURE) は、社会、生態系、環境のシステムとプロセスの相乗効果を重視しながら、北太平洋の生態系の調査を推進しています。この枠組みの中で、PICES は、気候変動と人為的圧力が海洋生態系、生態系サービス、および海洋に依存する社会システム

に及ぼす複合的な影響について、より深く理解することに重点を置いています。これらの基礎的な成果を基に、私たちは今、PICES の「未来」に着手しています。これは、より優れた観測、変化のメカニズムに関する認識の向上、そして最終的には 2030 年までに持続可能性のための科学につながるものです。PICES は、科学を通じて、国連の持続可能な開発のための海洋科学の 10 年と「私たちが望む海洋に必要な科学」を開発するという使命にリーダーシップを発揮し続けます。私たちは、PICES の「未来」に関連する提案を歓迎し、これまでの進歩を調査し、ギャップを特定して優先順位を設定するための科学を導きます。

助成金受給者の JB Thiebot 博士が PICES グループ会議に参加するのは今回が初めてでした。太平洋全域で活動する海洋科学者のコミュニティにとって PICES がいかに重要であるかを考えると、これは重要な機会でした。この文脈で、毎年多くの北海道大学水産科学院のスタッフが PICES 会議に参



加しています。JB Thiebot 博士は 2022 年に北海道大学水産科学院の新しいスタッフとして採用されていたため、これは太平洋の海洋、プランクトン、魚、その他の大型海洋動物を研究する大規模な国際コミュニティとつながる大きな機会でした。

会議の成果

この助成金の受給者は、この会議に参加することで、4つの理由から大きな恩恵を受けました。

第一に、会議が始まる前にいくつかのシンポジウムに出席することができ、JB Thiebot は大型海洋動物(海鳥、海洋哺乳類)の専門家研究グループのメンバーになりました。重要な議論が行われ、特に、鳥インフルエンザの発生という現在の深刻なリスクに立ち向かうには、近隣諸国間の協調的な協力が必要であることが認識されました。JB Thiebot は、この問題に関する日本の主な連絡担当者の1人になることを受け入れました。

第二に、このシンポジウムの後、会議の他のセッションに出席し、JB Thiebot は、海鳥と漁業活動の相互作用を含むいくつかの研究ネットワークに積極的に関与するようになりました。「海鳥を海洋資源の監視にどのように使用できるか」や「海鳥の移動データから、漁業活動との致命的な相互作用のリスクをどのように把握できるか」という問題が議論され、このディスカッショングループからレビューペーパーが現在共同で執筆されています。函館の北海道大学水産科学グループは、太平洋規模でこの問題に関する重要な研究を行ったことで評価されました。

最後に、この会議への参加がこの助成金の受給者にとって非常に有益であった3番目と4番目の理由は、JB Thiebot 氏が北海道で行った研究について2つのポスターを発表できたことです。この2つのポスターは、特にこの研究で使用された最新の技術機器(海鳥の海上での動きと摂食習慣を追跡するために海鳥に取り付けられた小型データロガー)のために多くの注目を集めました。使用された最先端の技術と北海道の研究場所の立地により、多くの熱心なコメントと議論が促進され、太平洋諸国全体での将来の協力とデータ共有の新しい目標が設定されました。

結論として、この会議に参加することで具体的な成果とともに大きな利益があり、私たちはこの会議に参加できたことに非常に感謝しています。